

【特別支援学校用】

令和4年度学校評価

結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立うれしの特別支援学校
-----	----------------

達成度（評価）

- A**：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・10項目中8項目が「A」評価、2項目が「B」評価であった。「A」評価についてもさらに進化させてより充実した学校づくりにつなげていく。 ・「業務の効率化推進と時間外勤務時間の削減」については、年々改善がされているが、引き続き職員の意識を高め、業務効率化に向けて改善に向けた取り組みが必要である。 ・昨年度は職員の専門性を高め12年間の一貫教育の特徴を生かすために職員校内留学や小中学校の企業開拓を実施し、各教員に児童生徒のキャリア教育のビジョンを抱かせることを狙いとしてすることができた。さらに職員のスキルアップを図り、一貫教育の魅力を引き出し唯一無二の学校づくりに取り組むとともに、インクルーシブな社会を目指して取り組んでいく。
------------------	---

2 学校教育目標	キャリア教育を推進することにより、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、心豊かにたくましく、積極的に社会に参加し、貢献する人間を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	（1）「小・中・高12年間の一貫教育」の特長を生かす取り組みの推進 （2）特別支援教育の専門性の向上 （3）新学習指導要領を踏まえた教育の実現 （4）進路希望の実現 （5）積極的な社会参加 （6）地域の特別支援教育のセンターとしての役割の発揮 （7）教職員の働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目		重点取組		具体的取組		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着。 (○新学習指導要領を踏まえた教育の実現)	○段階や「育成すべき資質・能力」を踏まえた指導目標を立て、手立てを講じ、「付けたい力をつけることができた」の80％達成。	「個別の指導計画」の年間目標および各学期の目標設定にあたり学習指導要領の各教科の範囲との相関に努め、日々の授業に臨む。 「各教科の指導（国語及び算数・数学）」において、実態や学習の到達度を把握し、段階を踏まえ、育成すべき資質・能力をもとに個々の指導目標及び内容を設定し、適切な評価・改善を行う。	「個別の指導計画」の年間目標及び前期・後期の目標を指導要領の各教科の段階を考慮して設定し、児童生徒一人ひとりに応じた指導支援に活かすことができた。 「各教科の指導（国語及び算数・数学）」において、全授業者が段階や「育成すべき資質・能力」を踏まえて授業を行い、授業実践と評価を行った。「付けたい力をつけること」について、約80％の職員がだいたいできた以上と答えた。	A	「各教科の指導（国語及び算数・数学）」において、課程別縦割りグループで、前年度の学びや他学部とのつながりを意識し、学習内容を積み上げることができた。 「各教科等を含めた指導（生活単元学習）」において、新授業シートで指導する教科や内容を明確にし、一貫性として全校で共通した。他学部とのつながりや、学習の積み上げを考慮して、指導の振り返り、次年度の計画を立てることができた。 ・本年度当初職員会議で全職員に配布し、周知を図った。職員や保護者、外部者等の目につきやすいよう廊下等に新たに掲示した。 ・新転任者には、年度当初研修会で内容を説明した。 ・専門性の向上のためスイッチ製作の研修会を2回来校した。アセスメントに関する研修会を、コロナ感染拡大の影響で中止となり、来年度実施予定。	A	・十分に評価できる。 ・確かな学力＝生きる力へつながる。生活力を生かす力として学力を身につけるための学習活動を展開して欲しい。	
	○「小・中・高12年間の一貫教育」の特長を生かす取り組みの推進	○前年度の学びや他学部とのつながりを意識し、「学習内容を積み上げることができた」の80％達成。 ○「生活単元学習」において、合わせて指導する教科や内容を明確にし、「各学年・コースで指導内容を見通すことができた」の80％達成。	「課程別縦割りグループ」での研修や授業参観を通して学期間の指導を見通し、つながりを意識しつつ、個々の学びをファイルに記録し、次年度に引き継ぐ。 「生活単元学習」に合わせて指導する教科や内容を年間計画や授業シートに明記する。学年・コース別の取り組みの一貫性を作直し、適切な時期に適切な内容が学べるように見通しを図る。	「課程別縦割りグループ」での研修や授業参観を通して学期間の指導を見通し、つながりを意識しつつ、個々の学びをファイルに記録し、次年度に引き継ぐ。 「生活単元学習」に合わせて指導する教科や内容を年間計画や授業シートに明記する。学年・コース別の取り組みの一貫性を作直し、適切な時期に適切な内容が学べるように見通しを図る。	A	「各教科の指導（国語及び算数・数学）」において、課程別縦割りグループで、前年度の学びや他学部とのつながりを意識し、学習内容を積み上げることができた。 「各教科等を含めた指導（生活単元学習）」において、新授業シートで指導する教科や内容を明確にし、一貫性として全校で共通した。他学部とのつながりや、学習の積み上げを考慮して、指導の振り返り、次年度の計画を立てることができた。 ・本年度当初職員会議で全職員に配布し、周知を図った。職員や保護者、外部者等の目につきやすいよう廊下等に新たに掲示した。 ・新転任者には、年度当初研修会で内容を説明した。 ・専門性の向上のためスイッチ製作の研修会を2回来校した。アセスメントに関する研修会を、コロナ感染拡大の影響で中止となり、来年度実施予定。	A	・十分に評価できる。 ・研修会等で自己研鑽されている。是非児童生徒に生かして欲しい。	
	○特別支援教育の専門性の向上	○職員・保護者の「うれしの特別支援学校スタンダード」の認知徹底率90％以上。 ○授業づくりや、障害に応じた支援に関する研修の実施。	・職員・保護者の「うれしの特別支援学校スタンダード」の認知徹底率90％以上。 ・授業づくりや、障害に応じた支援に関する研修の実施。	・職員・保護者の「うれしの特別支援学校スタンダード」の認知徹底率90％以上。 ・授業づくりや、障害に応じた支援に関する研修の実施。	・職員・保護者の「うれしの特別支援学校スタンダード」の認知徹底率90％以上。 ・授業づくりや、障害に応じた支援に関する研修の実施。	A	・十分に評価できる。 ・研修会等で自己研鑽されている。是非児童生徒に生かして欲しい。	A	・十分に評価できる。 ・研修会等で自己研鑽されている。是非児童生徒に生かして欲しい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○図書を活用した教育実践。 ○社会におけるルールやマナーに関する指導の実施。	・授業時間はもとより休み時間を含めた学校生活全体を通しての活動において、社会性や道徳性の向上に資する支援・指導・働きかけを行う。	・読み聞かせなど本に触れる指導を通して感動する心を育てることができた。 ・「うれしのスタンダード」を再確認し、児童生徒の理解に努め、人権を尊重した指導支援を行った。児童の行動を肯定的に見て、適切な言葉、基本となる行動を学ぶことで、自信を育て、社会性の向上につながった。	A	・十分に評価できる。 ・「うれしのスタンダード」を再確認し、児童生徒の理解に努め、人権を尊重した指導支援を行った。児童の行動を肯定的に見て、適切な言葉、基本となる行動を学ぶことで、自信を育て、社会性の向上につながった。	A	・十分に評価できる。 ・「うれしのスタンダード」を再確認し、児童生徒の理解に努め、人権を尊重した指導支援を行った。児童の行動を肯定的に見て、適切な言葉、基本となる行動を学ぶことで、自信を育て、社会性の向上につながった。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等）について組織的対応ができていて回答した教員80％以上を目指す。	・いじめに関するアンケート調査を年5回以上実施する。 ・高等部生徒の相談体験活動として、年間を通して2回以上は生徒が職員と対面で会話をする時間を設ける。	・いじめに関するアンケートは年間計画通り5回実施できた。また、問題が発生した場合には校内委員会において関係職員と情報共有や今後の対応に活用できる対応ができた。 ・年間を通して相談体験活動を実施したことにより、実施後も生徒が先生に相談することの機会が増えたように感じている。先生と和やかな会話ができたことがきっかけという感想もあった。	A	・十分に評価できる。 ・問題が発生した場合には校内委員会において関係職員と情報共有や今後の対応に活用できる対応ができた。 ・年間を通して相談体験活動を実施したことにより、実施後も生徒が先生に相談することの機会が増えたように感じている。先生と和やかな会話ができたことがきっかけという感想もあった。	A	・十分に評価できる。 ・いじめの早期発見、早期対応体制の充実	
	○進路希望の実現（進路開拓の検討）	○児童生徒、保護者の進路ニーズに応じた情報提供や就業・施設体験の設定を行い、「付きている」「おおむねできている」で90％以上。 ○進路希望達成率100％の実現。	・地域の企業や施設と連携・協働した職員の体験研修や見学研修、及び全学部における就業・施設体験の実施。保護者の進路希望の実現。	・職員による新規企業開拓や校内留学等により、学部を超えて児童生徒の進路支援の理解に取り組む。就業・施設体験の実現。保護者の進路希望の実現。	・職員による新規企業開拓や校内留学等により、学部を超えて児童生徒の進路支援の理解に取り組む。就業・施設体験の実現。保護者の進路希望の実現。	A	・十分に評価できる。 ・就業・施設体験の進路学習では、外部講師を招聘し、地域の相談と連携をいかにした。 ・高等部3年生35名のうち、16人が就職（A型2名を含む）。福祉サービス利用の生徒も全員が進路決定し、希望進路100％を実現できた。保護者の協力をはじめ、地域企業や福祉事業所との連携・協働が充実した結果である。	A	・十分に評価できる。 ・進路希望の実現（進路開拓の検討）
	○積極的な社会参加	○中学部・高等部の生徒たちの社会参加率90％以上、小学部の児童たちの参加率50％以上。	・学校間交流や地域の方々とのかかわり活動や年5回以上実施。 ・新活動を中心に、障害者スポーツ大会、緑野市文化祭への参加の他、アピリックへの出向や各種文化行事・コンクールへの参加や出展の実施。	・学校間交流や地域の方々とのかかわり活動や年5回以上実施。 ・新活動を中心に、障害者スポーツ大会、緑野市文化祭への参加の他、アピリックへの出向や各種文化行事・コンクールへの参加や出展の実施。	・学校間交流や地域の方々とのかかわり活動や年5回以上実施。 ・新活動を中心に、障害者スポーツ大会、緑野市文化祭への参加の他、アピリックへの出向や各種文化行事・コンクールへの参加や出展の実施。	A	・十分に評価できる。 ・積極的な社会参加	A	・十分に評価できる。 ・積極的な社会参加
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○さまざまな災害発生時における危険について児童生徒が理解し、安全な行動がとれるように指導する。 ○「健康意識調査」において、「食事をしっかりとる」「おむねできている」と答える児童生徒80％以上をめざす。	・年間3回の避難訓練（大雨による浸水・土砂災害、火災、地震）を実施する。 ・消防署など関係機関との連携を図る。 ・食に関する指導の全体計画に基づき、授業や給食の時間に指導する。 ・おたよりや献立表、給食試食会などを通して、家庭における関心を高める。	・年間3回の避難訓練（大雨による浸水・土砂災害、火災、地震）を実施する。 ・消防署など関係機関との連携を図る。 ・食に関する指導の全体計画に基づき、授業や給食の時間に指導する。 ・おたよりや献立表、給食試食会などを通して、家庭における関心を高める。	A	・十分に評価できる。 ・望ましい生活習慣の形成	A	・十分に評価できる。 ・望ましい生活習慣の形成	
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンターとしての機能の充実（○地域の特別支援教育のセンターとしての役割の発揮）	○県西南部地区の特別支援教育のセンターとしての役割を担い、積極的に相談事業を推進し、巡回相談及び求職相談においては依頼に対する実施率100％を目指す。 ○各学部・会と連携し、地域の事例に役立てるために、様々なチーム支援の事例を8事例以上まとめる。 ○分掌部と連携し、地域に役立つ情報提供を行うなど、様々な形で地域支援に取り組む。（5回以上）	・地域の企業や施設と連携・協働した職員の体験研修や見学研修、及び全学部における就業・施設体験の実施。保護者の進路希望の実現。	・職員による新規企業開拓や校内留学等により、学部を超えて児童生徒の進路支援の理解に取り組む。就業・施設体験の実現。保護者の進路希望の実現。	・職員による新規企業開拓や校内留学等により、学部を超えて児童生徒の進路支援の理解に取り組む。就業・施設体験の実現。保護者の進路希望の実現。	A	・十分に評価できる。 ・効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンターとしての機能の充実（○地域の特別支援教育のセンターとしての役割の発揮）	A	・十分に評価できる。 ・効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンターとしての機能の充実（○地域の特別支援教育のセンターとしての役割の発揮）
	●地域支援	○分掌部と連携し、地域に役立つ情報提供を行うなど、様々な形で地域支援に取り組む。（5回以上）	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。 ・「特別支援教育コーディネーター地区連絡協議会」や「地域連携研究会」を実施し、地域の学校等のコーディネーターとのネットワーク作り及び情報共有を行う。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報」の機能を設ける。 ・「各分掌部が持つ専門性とセンター的機能を一貫し、年度末に実績をまとめる。	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。 ・「特別支援教育コーディネーター地区連絡協議会」や「地域連携研究会」を実施し、地域の学校等のコーディネーターとのネットワーク作り及び情報共有を行う。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報」の機能を設ける。 ・「各分掌部が持つ専門性とセンター的機能を一貫し、年度末に実績をまとめる。	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。 ・「特別支援教育コーディネーター地区連絡協議会」や「地域連携研究会」を実施し、地域の学校等のコーディネーターとのネットワーク作り及び情報共有を行う。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報」の機能を設ける。 ・「各分掌部が持つ専門性とセンター的機能を一貫し、年度末に実績をまとめる。	A	・十分に評価できる。 ・地域支援	A	・十分に評価できる。 ・地域支援
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会提調に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・ひと月の時間外勤務45時間以内（または年間360時間）を職員一人一人が意識する。	・ひと月の時間外勤務45時間以内（または年間360時間）を職員一人一人が意識する。	A	・十分に評価できる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進	A	・十分に評価できる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「チームうれしの」を合言葉に一人一人の時間外勤務削減	○学習行事などの業務内容の10％削減 ○運動時間を減らしても19時30分とする。	・各業務内容の効率化と平準化を図る。 ・食費時間の短縮を図る。（資料の事前配布・日ごとの時刻表） ・19時30分超過勤務時間の申請と管理職面談による業務内容把握と改善。	・各業務内容の効率化と平準化を図る。 ・食費時間の短縮を図る。（資料の事前配布・日ごとの時刻表） ・19時30分超過勤務時間の申請と管理職面談による業務内容把握と改善。	A	・十分に評価できる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進	A	・十分に評価できる。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進	

●…県共通 ○…学校独自 ○…市を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・すべての項目について、A（十分達成できている）の評価となった要因は、継続して学校目標を掲げ取り組んできたことが定着し、成果として現れ評価につながった。 ・今年度は、【特色1】特別支援学校としての専門的な指導・支援を基盤の上に、【特色2】の小・中・高12年間の一貫教育の特長を生かしながら、キャリア教育や主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくり 教育を推進し、【特色3】希望進路100％実現を目指して取り組んできたが、7つの重点目標を踏まえ、十分な成果を上げることができた。 ・昨年度課題が残った働き方改革については、時間外勤務の減少はもちろんのこと、各業務の平準化・効率化を図ることができた。職員一人一人の意識が変化や「チームうれしの」で業務に取り組むことができた結果である。今後も唯一無二の学校づくりを目指し、「チームうれしの」で取り組んでいきたい。
----------------	---